

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		児童発達支援センター ひまわり学園				公表日	令和8年2月26日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	9	2	11月中旬に、保育室の仕様変更を行った。クラスごとに環境設定の内容(例 個人のスペースがある等)に違いは見られるが、どちらもお子さんの状態に応じて安心して過ごせる環境を考え、実施しているところである。	今後も、お子さんの様子に合わせた環境設定に取り組んでいく。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8	3	1クラスお子さん9名に対し支援者3~4名配置を基本とし、その日のお子さんの様子によっても配置数を増やす等している。	手厚く職員配置をしているが、突発的な課題に対応しきれないところもある。今後も一人ひとりの特性に合わせた環境設定、活動プログラムの検討が必要と思われる。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	11	0	・場所や活動など、イラストや写真を使用して視覚支援を行っている。 ・クラス内に個別スペースを設置したり、仕切りを活用して一人ひとり安心して過ごせる場所を設けている。	・発達段階が様々な児童が同じクラスにいるため配慮しきれないところもあり、検討が必要。(例 視覚支援のさらなる個別化 等)	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	11	0	こどもたちの状況に合わせて活動できるよう、仕様変更を行った。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	11	0	・机上課題を行う際は、パーテーションで区切り、集中しやすいようにしている。 ・必要に応じて、個別のスペースを用意している。	今後も継続する。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	10	1	各種会議には、非正規職員も含め、参加している。職員会議やクラス会議などで、新たに作成したPDCAサイクルの様式を活用し改善に取り組み始めている。	業務改善の話し合いは行っているが、まだPDCAサイクルで十分にまわりきれていない。今後もPDCAサイクルを全職員が意識して取り組めるよう働きかけていく。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10	1	年に一度、調査を行っている。また、送迎時や面談時に意向を聞き取っている。	今後も、送迎時の保護者との会話から意向を聞き取ったり、定期的に面談を行い意向を確認していく。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10	1	クラス会議や職員会議、管理職との面談機会などの意見を伝える場があり、業務改善につなげている。	業務改善の話し合いは行っているが、まだPDCAサイクルで十分にまわりきれておらず、改善課題も多いため時間がかかっている内容もあるが、ひとつひとつ確実に実施することを心がけている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	7	4	今年度2月中に、第三者(行政)による外部評価を行うこととしており、評価員と所属課には依頼済み。	評価員から受けた評価結果は職員会議で職員周知し、業務改善につなげる予定としている。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	11	0	内部研修(視覚支援に関するもの)や、併設園職員と合同の研修(こどもへの接し方)を開催した。また、他センターの視察、専門スキル向上のための外部研修の派遣等を実施している。	発達障がい等に関する研修や、権利擁護研修など併設園と合同で行い、園全体でも保育、サービスの質の向上に努める。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	11	0	公表している。	こどもたちの状況に合わせて、支援プログラムの検討の実施を行う。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	11	0	・今年度、発達検査が可能な体制を整備した。 ・職員ひとりひとりが把握しやすい、アセスメント様式の変更を検討している。	アセスメント様式の変更を行い、よりお子さんの様子に合わせた計画書の作成につなげる。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	11	0	作成時には、多職種からの意見を取り入れている。	今後も、支援に関わる職種からの意見を取り入れた支援計画の立案を行っていく。	

適切な支援の提供	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	11	0	毎月、クラス会議で子どもたちの状況を確認し支援について検討している。	・職員全員が会議に出席することは難しく、職員間での共有が細部まで十分に行えていない部分がある。共有方法について工夫が必要と考える。 ・クラス会議などで今後も支援状況の確認を行っていく。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8	3	・フォーマルなアセスメントツールを使用したアセスメントに取り組み始めている。 ・アセスメント様式を見直している。	アセスメント様式の変更を行い、フォーマル、インフォーマル両方を活用したアセスメントを行う予定である。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	11	0	設定している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	9	2	療育支援会議やクラス会議などで検討を行いながら、立案を行っている。	・活動プログラムの充実を図るため、併設園の活動内容を聞くなど、新しい情報を取り入れていく。 ・全体で行うだけでなく、個別のプログラム提供を行っていく。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8	3	上記同様、会議内で検討を行ったり、クラス同士でやり取りを行いながら、固定化しないようにしている。	・プログラムのマンネリ化を危惧する職員がいる一方、実施を試みたいプログラムのアイデア等を持っている職員もいるため、お互いに情報共有して試行していきたい。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	11	0	個別活動と集団活動を適宜組み合わせている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	11	0	朝会で確認を行っている。	朝会で打ち合わせているが、出勤時間が異なる職員がいる。前日に、翌日の内容が共有できるようにする、保育室に入っても打ち合わせた内容を確認できるようにするなどの工夫を検討している。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	11	0	毎日支援の振り返りを行い、翌日の支援の検討を行っている。	退勤時間が異なる職員がいることもあり、振り返った内容は日誌に記載し、共有できるように取り組んでいる。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9	2	・PCで毎日の記録を残している。 ・試行的に、グループ療法の内容を様式を別にして記録している。	記録を支援の検証・改善に活かすことを職員ひとりひとりがさらに意識できるよう、検討していく。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	11	0	定期的に見直しを行っている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	11	0	児童発達支援管理責任者を中心に、担任やリハビリスタッフ等、派遣する職員を都度検討している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	11	0	通院同行や学校見学、学校側の見学受入等、顔を合わせたやりとりを意識している。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	11	0	・上記同様 ・併設園を利用しているおじさんの情報共有会議を併設園保育者とともに行った。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	11	0	学校見学に同行したり、学校側からも見に来ていただき、情報共有を行った。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	11	0	今年度、地域の放課後等デイサービス向けの研修会を実施し、好評をいただいた。	次年度も、研修会の実施や事業所見学などを実施していきたい。
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	11	0	感覚統合や身体調和等、専門的な研修へ職員を派遣した。	継続的に実施していく。
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等積極的に参加しているか。	10	1	管理者が、新発田市自立支援協議会児童部会ワーキング座長を務めている。	
	(31は、事業所のみ回答)					

連携	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	8	3	運動会やおまつりごっこなど、併設園と共同で行う行事があり、交流の機会があった。	・こども園が併設されているが交流が少ないことを両園ともに感じている。個別リハビリの時間を利用して園庭遊びに参加したり、こども園のクラスに遊びに行く等の交流を増やし、インクルーシブ保育を推進していく。 ・所属園とひまわり学園の併用利用を意識する。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	11	0	連絡帳、送迎時にお子さんの様子を伝えている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	9	2	・ババスクールやミュージックケアの親子行事などを実施した。 ・就学に関する説明会やメディアの怖さに関する講座などの実施も試みた。	・プログラム内容や案内方法等を見直し、次年度も実施を検討する。
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	11	0	実施している。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	10	1	ご家族にはアンケートや面談で、意向を確認している。	・ご家族だけでなくお子さんの意向も確認・推察し、支援計画に反映させていく。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	11	0	実施している。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	11	0	定期的に面談機会を設けている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	10	1	保護者座談会やランチ会の開催時には、お子さんの預かり保育を行っている。	きょうだい同士で交流する機会を設ける等に行っていない。実施にあたっては、ニーズを確認し検討していく。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	10	1	相談時には、その都度対応を行っている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	11	0	LINEを使用して、タイムリーに実施している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	11	0	個人情報の同意を得て、取り扱いに留意している。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	10	1	こどもたちの特性に応じてカードを用いるなど配慮を行っている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	8	3	・運動会では対象者制限の撤廃を行い、たくさんの方に見に来ていただいた。 ・総合避難訓練を実施。避難訓練を地域の方と一緒に行うことができた。	・今年度は、総合避難訓練で区長さんをお招きした。今後も地域交流を意識した活動に取り組んでいく。
非	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	11	0	事故防止、防犯、感染症等に対応するため、定期的に訓練を実施している。	継続的に実施していく。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	11	0	必要な訓練を行っている。	感染症対策、および防災物品の見直しも行っている。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	11	0	・午睡時はチェック表を付けている。 ・てんかん発作については、事前に個々のマニュアルを作成し対応している。	継続的に実施していく。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	11	0	実施している。	継続的に実施していく。

常 時 等 の 対 応	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	11	0	安全計画を作成し、研修や訓練等を行っている。	継続的に実施していく。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	11	0	・事業所内に掲示している。	継続的に実施していく。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	11	0	毎月、ヒヤリハットの内容を職員会議で共有している。ヒヤリハットの件数が増えたため、保育室の仕様変更を行った。	1つ1つのヒヤリハット検討だけでなく、必要に応じて抜本的な検討も行う。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	11	0	併設園と合同で、権利擁護研修を行った。また、セルフチェックも行き、結果を職員全体で共有し支援を検討していくことも実施している。	継続的に実施していく。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	11	0	・該当児なし。 ・何が身体拘束にあたるかを職員で共有した。	こういったものが身体拘束にあたるのか、定期的に職員全体で確認し意識が薄まらないようにする。